

5 成果と課題

【学校生活】

- ・ 「1 学校が楽しいですか」の項目でプラスの回答をした児童が98%おり、昨年度より2%上昇している。引き続き、ハイパーQ Uテストの結果をさらに有効活用できるよう研修を深めたり、「学校生活アンケート」からの教育相談で子どもたちの心の安定を図ったりしていきたいと考える。さらに、相談内容を記録に残して全職員の共通理解のもとで生徒指導を進めることで、「楽しくない・あまり楽しくない」と回答した2%（6名）の児童に光を当てていくことが必要である。また、グラフ上では「全く思わない」は1%だが、実際には1・5年生の児童でそれぞれ1名の児童が「全く思わない」と、回答しているので、家庭との連絡を密にしながら見守っていく必要がある。
- ・ 「5 話を聞く・23 係や当番の仕事・24 掃除」などの学校生活の基本的な部分の項目で、児童の多くは「できている」と回答している。しかし、保護者や教師の大人の目から見るとまだ十分とは言えないようだ。児童が頑張っている行為をきちんと認めつつ、更にしっかりできるように心を育て習慣化させていきたいと考える。
- ・ 「26 休み時間に運動場へ出て元気よく遊ぶ」児童がたくさんいるが、学年が上がるにつれて少なくなっている。教師も児童に声をかけ一緒に遊ぶ姿も多く見られた。遊びの場面からも人との関わり方を学ばせていきたい。
- ・ 「10 先生に相談するか」の項目は、思春期を迎えるとなかなか自分から教師に言えないことが多くなるが、声かけや生活アンケート、さらには児童同士の会話にもアンテナを高くして早期発見に努め、面談などにより解決を図っていきたい。

【授 業】

- ・ 自分が考えた解き方をグループで伝え合い、説明し合いながら、それまで自分が知らなかったことや気づけなかったことを発見していく学び合いの研究を算数科を中心に進めている。今年の「算数の勉強は好きですか」のアンケート調査結果では、約8割の児童が「好き・どちらかといえば好き」と回答している。また、「いろいろな考え方で解こうとする・教え合う・友達の考え方を聞いて、自分の考えと比べている」ことについて算数学習で積極的に取り組んでいる児童が増加している。
- ・ 「9 授業はわかりやすく楽しいですか」の問いでプラスの回答をした児童が93%となっている。さらに授業研究などで研修を深め、わかりやすく楽しい授業の展開を工夫して、1%の「全く楽しくない」という児童を0%にしていかななくてはならない。

【学校行事】

- ・ 「1 学校行事は楽しいですか」の問いに多くの児童がプラスの回答をしている。児童が達成感や充実感もてる行事の在り方をさらに工夫していきたい。
- ・ 地震・津波・火災に対する避難訓練を定期的に、授業中・休み時間など様々な場面を想定して行うことで、静かに落ち着いて機敏に避難行動がとれる児童になってきている。どの訓練のときでも常に真剣に行動でき、ふざける児童の姿は見られない。

【教職員の資質向上】

- ・ 校内現職教育では、算数教育、ハイパーQ Uテスト結果の活用、合唱指導等の講師を招聘し、研修を深めることができた。また、防犯教室、食育、そろばん等の出前授業を児童対象に行い、実りあるものになった。